

CARREL

2023
Vol.1350
定価550yen

6

キャレル

／ もっと深く、もっと豊かに
新潟ライフを輝かせる

特集

キャレルの チャリティー オープンガーデン 2023

あのお庭を、
今年も
チャリティー
公開



シリーズ特集●ひとりで豊かに新潟で暮らすには
おひとり同士委員会(その三十八)
おひとり同士委員会で取り上げてほしいこと。

クッキング●卵でごちそうレシピ

ゼロからの菜園生活●
大きくて甘いトマトを育てるには?

キャレルインタビュー●

山崎 玲奈さん(俳優)

特集●保存版・上越の旧家に残る婚礼の衣裳

新潟の花嫁衣裳。

今年も
チャリティー企画で
お庭を公開

| 特集 |

キャレルの チャリティー オープンガーデン 2023

新潟ではまだオープンガーデンが一般的ではなかった2008年にスタートした、キャレルのオープンガーデン特集。これまで、延べ350の個人宅やお店にご登場いただきました。16年目の今回でキャレルのオープンガーデン特集は一区切りになりますが、今年の参加庭はwebでも紹介予定。詳しくはP35をチェック!

この小さな
ボックスを見かけたら、
ぜひ募金を
お願いします!



今年の
チャリティーボックスです

紹介したお庭には必ず、このチャリティーボックスがあります。集まった募金は、トルコ・シリア大地震への救援金を予定しています。この小さなボックスを見かけたら、ぜひ募金をお願いします!

今年チャリティー初参加の オープンガーデン

まず紹介するのは今年、初めてチャリティーに参加してくれる庭。個人の庭やお寺、お店を含めて8庭です。日本庭園、バラの庭、フロントガーデンなど、さまざまなスタイルの庭があります。



「築70年の古い家に手を
入れてリフォームしていく
ように、庭も少しずつ趣き
を変えています」



バランスよく配置された
木々を眺め、木漏れ日が揺
れる石の階段をのんびりと
歩くのも楽しい



古くから新潟県
で飼育されている
鶏・唐丸に出
会えることも

古き良き日本庭園の伝統を楽しむ 3日間限定公開の“隠居の和庭”

【長岡市】山本邸 【オープンガーデンみつけの会】



実は仏像を彫る仕事をしてい
たという山本さん。こちらは山本
さんの作品ではないが、庭には
扇を寄せるお地蔵さまの姿も



data
住◎長岡市杉之森336
Tel.0258-66-5952
《公開時期》
5月28日(日)~5月30日(火)
9時~17時
《事前連絡》不要
P◎10台

個人宅でありながら、1200坪という庭の広さに驚く。庭造りを始めたのは40年前。農業をやめ、ハウスや農舎を撤去すると、広い空き地が現れた。「そのままにしておくのもなんだし、健康のためと思つて家の周りに100株、25~26種類のアジサイを植えたんです。そしたら、毎年、5000人の見学者が来るようになって」と山本さん。見学者の接待が大変で、一度はアジサイを全部抜いて家族が楽しむ庭造りが始まったが、「やっぱりみんなに楽しんでもらおう」と3年前から年に3日だけ庭を公開しているそう。

庭のテーマは、築70年の住居に映える「隠居の和庭」。ツバキや桜、花桃やフジ、ヤマボウシなどをバランスよく植え、洋の花も取り入れて変化を楽しむ。国の天然記念物に指定されている鶏、唐丸を放し飼いにしているのも、「和の庭もそうだけど、失われつつある日本の文化や日本の美を伝えたいから」と言う。公開する3日間は、若葉がこころ美しく輝く頃だ。

「部屋ごとに見える庭の印象が変わるようにこだわった」とか





●上越の旧家に伝わる婚礼の衣裳 保存版

新潟の花嫁衣裳。

6月はプライダグルシーズン。女性にとって、花嫁衣裳はいつの時代も憧れであり、年齢に関係なく特別な存在。
 県内の旧家で大切に守られてきた花嫁衣裳の特集をしたのは、本誌2020年2月号の「新潟で代々伝わる旧家の花嫁衣裳」でした。今回は県内の6軒の旧家の花嫁衣裳と、それぞれにまつわる物語などを紹介しました。掲載後、ある旧家の方から「京都の知人が、新潟では花嫁衣裳を代々大切にしている風習があるのですねと驚き感心していました」と伺いました。花嫁衣裳を大切に守っていくことは、とても貴重なことと改めて感じ、再びの特集です。今回は、上越市の2軒の旧家の着物を特別に撮影させていただきました。

2020年2月号
 「新潟で代々伝わる旧家の花嫁衣裳」で紹介した
 6軒の旧家の婚礼衣裳



中島家(南魚沼市)
 江戸時代から海産物問屋を営んでいるという中島家。現在は町の案内所として自宅を開放し、地域のイベントでは花嫁衣裳を2カ月ほど展示します。華やかな花嫁衣裳は、当主の母・美栄さんのお嫁入りの時のもので、襦袢の中に梅などのおめでたい文様が友禪と刺繍で描かれています。



行形家(新潟市中央区)
 300年以上の歴史がある料亭・行形亭を守る行形家。料亭のシンボルでもある鶴が優雅に舞う姿が描かれた本振り袖は白無垢とともに、11代当主の行形和滋さんの祖父母が新潟市内の呉服店で眺めたそうです。和滋さんのおばや、いとこをはじめ妻の貴子さんも着た花嫁衣裳です。



石井家(阿賀野市)
 石井家は17代続く旧家で、明治天皇の北陸御巡幸の折には御小休止所にもなりました。江戸時代中期、13~14歳の花嫁が当家に嫁いだ折に袖を通したとされる衣裳は、地色は藤紫色、裾には金糸で亀の刺繍が縫い取られています。時代を経ても色褪せない美しい花嫁衣裳です。



二宮家(北蒲原郡聖籠町)
 千町歩地主と呼ばれた二宮家。現当主・二宮正光さんの母・慶子さんの花嫁衣裳は、桐や菊などが織られた地に、金銀糸の立派な文様、鶴が極彩色で刺繍された見事な衣裳です。この東京の三越で作ってもらったという着物は、慶子さんの長女、3人の孫へと大事に受け継がれています。



保阪家(上越市)
 保阪家は江戸時代、上越地方の97カ村をまとめた大地主で知られています。12代当主の保阪さんの祖母が明治27年にお嫁入りした際に着たという打ち掛けは、生地全体に鶴の模様が織られ、長襦袢の襟にも金糸で鶴の刺繍が施されています。100年以上の歳月を感じさせないほどの美しさです。



伊藤家(新潟市江南区)
 越後屈指の大地主で知られた伊藤家。大正15年に7代伊藤文吉さんに嫁いだ妻・竹子さんの花嫁衣裳は、輪子地に黒と紅に染め分けた本振り袖。金糸や銀糸の縁取りなども施された豪華な着物です。親族の女性をはじめ、8代文吉さんの妻・珠子さんの婚礼衣裳として引き継がれました。